

北星学園大学における 遠隔教育のイメージ

金子大輔
2020.4.7
ver. 1.1

大原則

- 遠隔授業（オンライン授業）でも面接授業でも，1単位の授業時間は45単位時間（2単位では90単位時間）は不変
- 15回授業を実施するとすれば，1回分は6単位時間（事前事後学習含め）となるように設計
- 遠隔授業には「面接授業に相当する教育効果」の担保が求められる

授業全体のイメージの例：面接と遠隔

授業回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
遠隔授業 (すべてオンライン授業)	遠隔授業															
遠隔授業 ※文科省Q&Aの掲載例 (「主として面接授業を実施した」と説明することは外形的には困難)	遠隔授業								対面	遠隔授業						
遠隔授業 (主として遠隔授業を実施したと担当教員が判断, 60単位上限, 教育支援課に要報告)	対面	遠隔授業							対面	遠隔授業					対面	
面接授業 (主として面接授業を実施したと担当教員が判断)	対面	遠隔授業				対面	遠隔授業				対面					
面接授業 (これまで北星で認められていた方法, 遠隔2回までなら対面授業とみなす)	対面授業		遠隔	対面授業				遠隔	対面							
面接授業 (すべて対面授業)	対面授業															

1回分の遠隔授業の例：10のケース

1. 資料配布 (オンデマンド)
2. 講義動画配信 (オンデマンド)
3. 講義動画配信 + 個人作業 (オンデマンド)
4. 講義動画配信 + グループワーク (オンデマンド)

↑ オンデマンド型

演習→

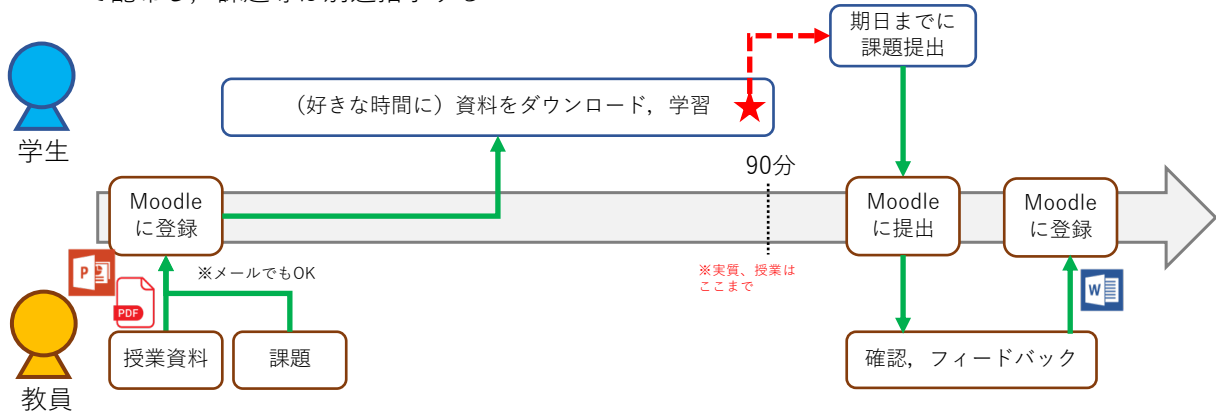
5. リアルタイム講義形式 (講義のみ)
6. リアルタイム講義形式 + 個人作業
7. リアルタイム講義形式 + グループワーク

↑ 同時双方向型

8. リアルタイムの演習
9. グループワークがメインの演習
10. 非同期の演習

(ケース1) 資料配布 (オンデマンド)

- あらかじめ授業の資料 (PDFやスライド) を作成してMoodleで配布し、課題等は別途指示する

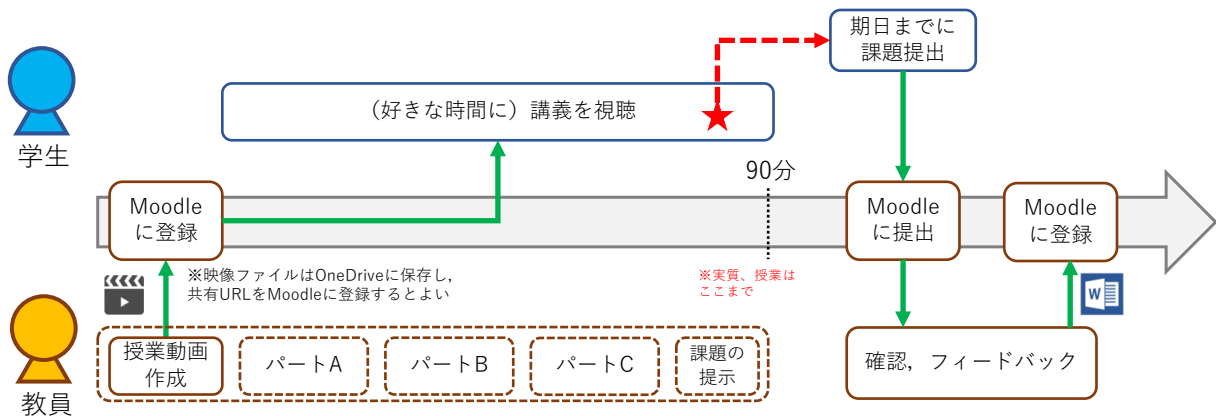


POINT

- ✓ オンデマンドのため、学生の主体性が求められる。
- ✓ 授業資料はMoodle上でHTMLで作成しても良い
- ✓ 授業資料の内容と、課題の内容が対応しているとよい。
- ✓ 資料を印刷させたい場合は、プリンタのない学生のために、コンビニの「ネットワークプリント」サービスも活用する
- ✓ フィードバックは個別に実施しなくても、ある程度まとめて実施してもよい。

(ケース2) 講義動画配信 (オンデマンド)

- あらかじめ授業の映像を録画してMoodleに登録し、オンデマンドで受講する

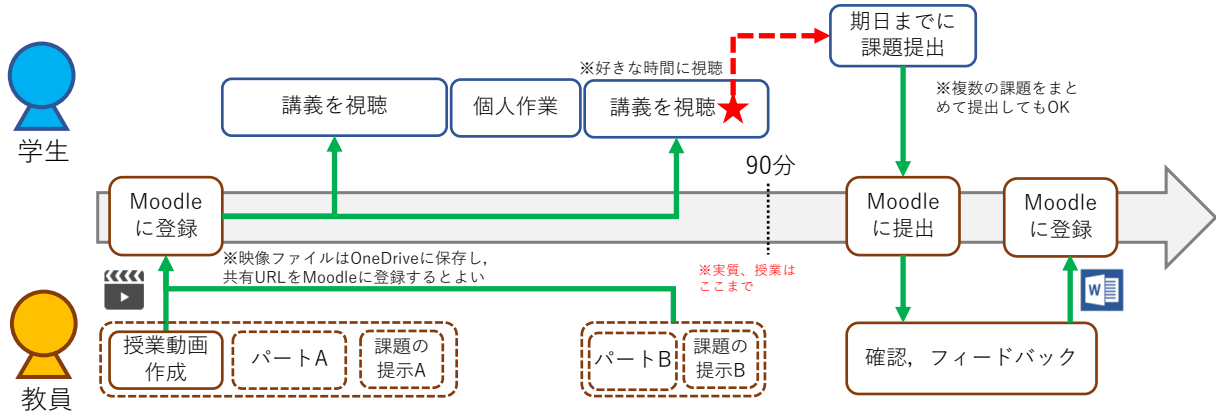


POINT

- ✓ オンデマンドのため、学生の主体性が求められる。
- ✓ 学生がバケ死 (バケットを使い過ぎて使用できなくなる) すること避けるために、短い動画を数個載せる程度にする。可能ならば、音声のみの教材にする。
- ✓ 授業資料の内容と、課題の内容が対応しているとよい。
- ✓ フィードバックは個別に実施しなくても、ある程度まとめて実施してもよい。

(ケース3) 講義動画配信+個人作業 (オンデマンド)

- 授業の映像に加え、個人作業の時間を授業時間内に確保する

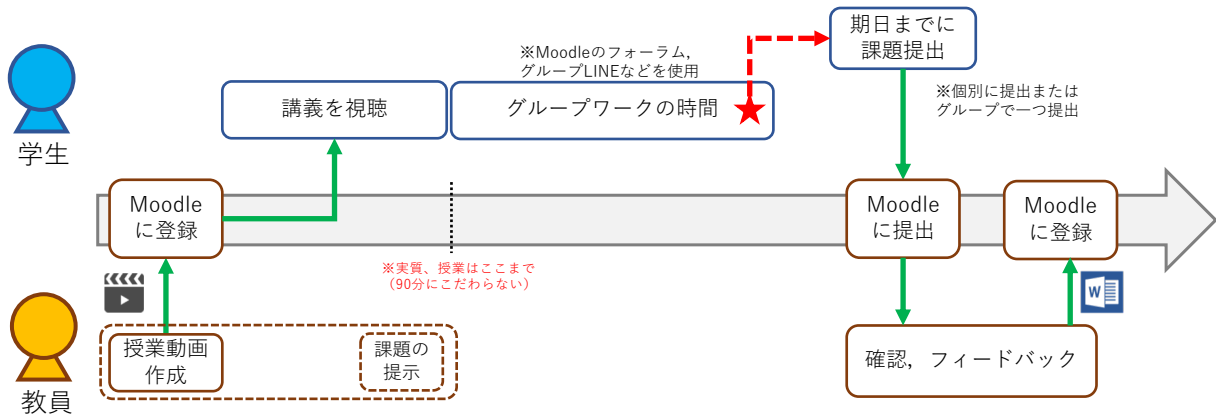


POINT

- ✓ オンデマンドのため、学生の主体性が求められる。
- ✓ 学生がバケ死 (バケットを使い過ぎて使用できなくなる) することを避けるために、短い動画を数個載せる程度にする。可能ならば、音声のみの教材にする。
- ✓ 授業資料の内容と、課題の内容が対応しているとよい。個人作業を重視するため、ここを充実させるとよい
- ✓ 個人作業を重視するため、できればフィードバックは個別に実施するとよい。

(ケース4) 講義動画配信+グループワーク (オンデマンド)

- 授業の映像を配信し、グループワークをした上で課題を提出する

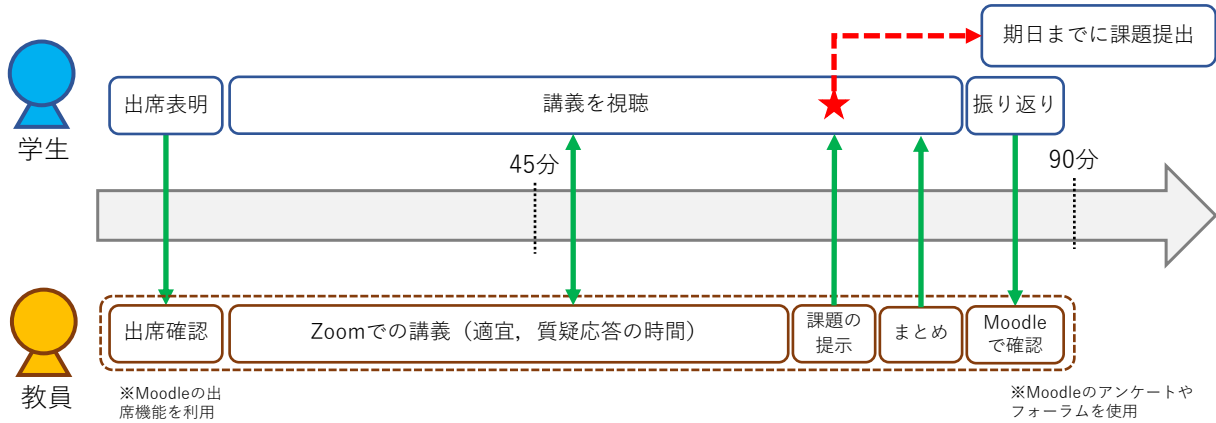


POINT

- ✓ オンデマンドのため、学生の主体性が求められる。
- ✓ 学生がバケ死 (バケットを使い過ぎて使用できなくなる) することを避けるために、短い動画を数個載せる程度にする。可能ならば、音声のみの教材や文字と静止画のみの教材にする。
- ✓ 授業資料の内容と、課題の内容が対応しているとよい。グループワークを重視するため、グループで取り組ませることを充実させる。事前にグループが決められているような授業だとやりやすいが、ランダムに選んだグループでも可。

(ケース5) リアルタイム講義形式 (講義のみ)

- 授業の時間に映像をライブ配信する

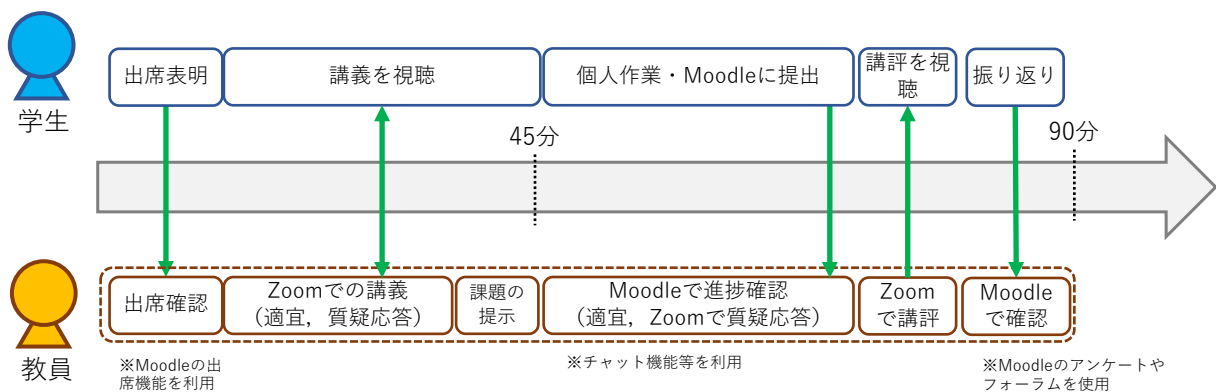


POINT

- ✓ 講義の前に、反転学習的に、収録しておいた映像を見せておくのもよい。授業資料もあらかじめMoodleにアップしておくとうかりやすい
- ✓ 出席は、中規模クラスであればZoom上でも取ることは可能。大規模クラスはほぼ不可能なので、Moodleの出席機能を使ったリ、振り返りの提出で出席とみなしたりなど工夫が必要
- ✓ チャット等をうまく使って質疑応答し、内容を充実させるとともに、受講者を飽きさせないように工夫する
- ✓ 欠席者および復習用に、録画したライブ映像を公開する

(ケース6) リアルタイム講義形式+個人作業

- 授業の時間に映像をライブ配信し、授業中に個人作業を実施する

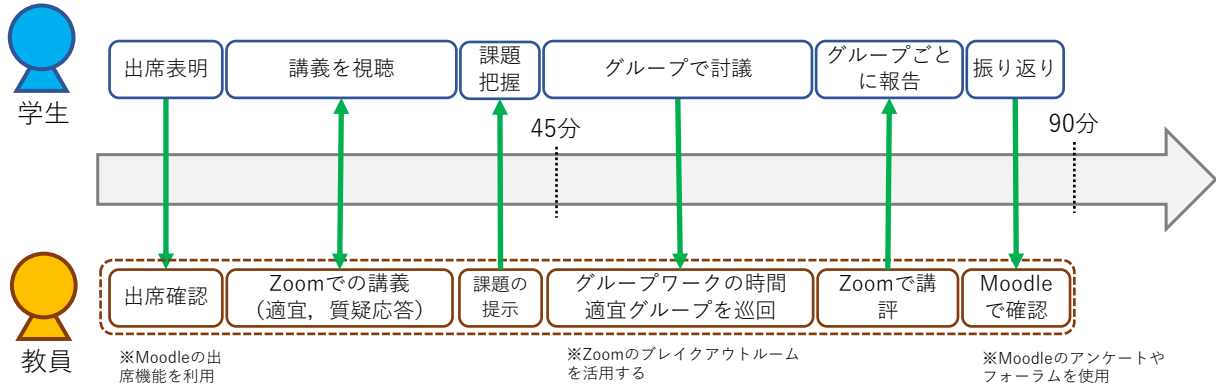


POINT

- ✓ 講義の前に、反転学習的に、収録しておいた映像を見せておくのもよい。授業資料もあらかじめMoodleにアップしておくとうかりやすい
- ✓ チャット等をうまく使って質疑応答し、内容を充実させるとともに、受講者を飽きさせないように工夫する

(ケース7) リアルタイム講義形式+グループワーク

- 授業の時間に映像をライブ配信し、授業中にグループワークを実施する

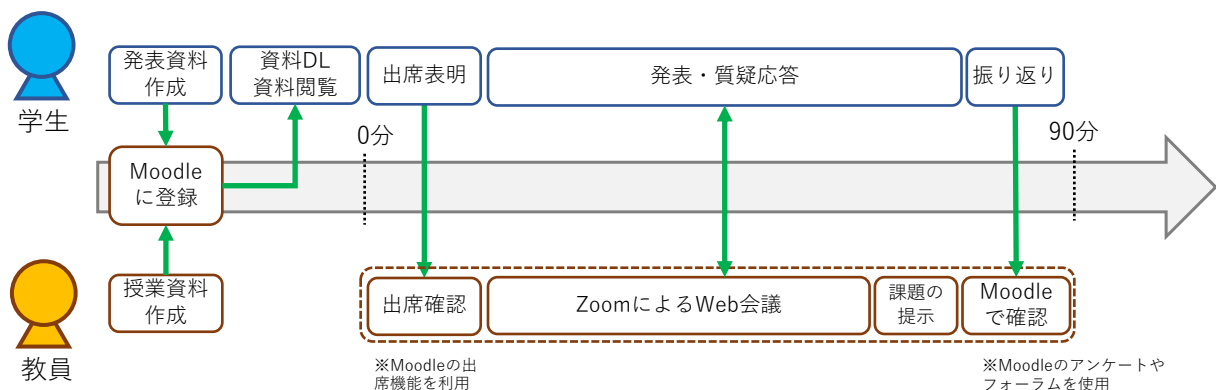


POINT

- ✓ 講義の前に、反転学習的に、収録しておいた映像を見せておくのもよい。授業資料もあらかじめMoodleにアップしておくとうかりやすい
- ✓ グループワークの成果を提出し、全員で共有すれば、提出物の確認を授業時間外にしないで済む
- ✓ Zoomのブレイクアウトルームは慣れるまで大変なので、何度も練習するとよい
- ✓ グループに分かれる前の指示は、できるだけ明確に具体的に行う。グループワーク時の「お見合い」を防ぐことができる

(ケース8) リアルタイムの演習

- ゼミなどでの発表や意見交換を、Web会議形式でリアルタイムに実施する

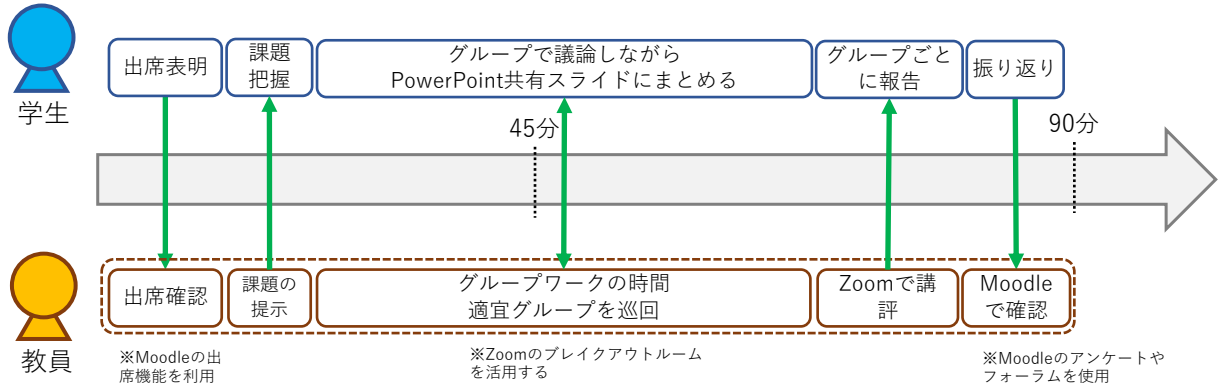


POINT

- ✓ 講義の前に、反転学習的に、収録しておいた映像を見せておくのもよい
- ✓ Web会議形式のため、発言が自由にしにくかったり、進行が滞ったりすることがある
- ✓ 不必要に音声流れないようにするために、ミュートさせておき、発言の場面でミュート解除させるなどのルールを決める

(ケース9) グループワークがメインの演習

- ゼミなどでグループワークをリアルタイムに実施する

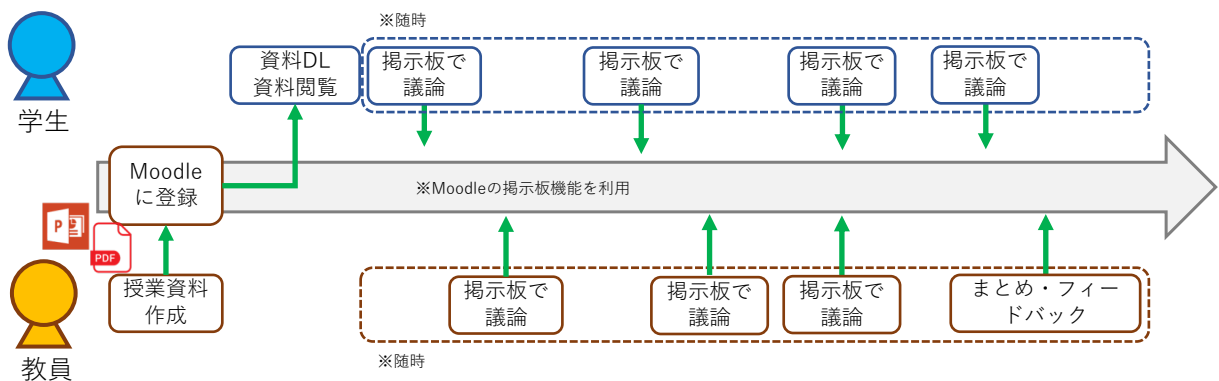


POINT

- ✓ 講義の前に、反転学習的に、収録しておいた映像を見せておくのもよい
- ✓ Zoomのブレイクアウトルームは慣れるまで大変なので、何度か練習するとよい
- ✓ PowerPointのスライドを共有して同時に共同作業するのは便利だが、学生が慣れるまでは何度か練習するとよい
- ✓ グループに分かれる前の指示は、できるだけ明確に具体的に行う。グループワーク時の「お見合い」を防ぐことができる

(ケース10) 非同期の演習

- ゼミなどを掲示板を活用して非同期に実施する



POINT

- ✓ 非同期のため、学生の主体性や教師の主導性が求められる。それがないと授業が滞ることがある
- ✓ 講義の前に、反転学習的に、収録しておいた映像を見せておくのもよい
- ✓ 文字ベースでのやりとりになるので、議論の内容や方向性について工夫が必要

授業として成立するための条件

①同時双方向型

- 授業形態
 - 「同時」かつ「双方向」
- 履修場所
 - 教室，研究室またはこれらに準ずる場所（自宅もOK）
 - 受講者のいる教室からの同時中継も有り
- 面接授業に近い環境で行うことが必要
 - 教員と学生が，映像・音声等によりお互いのやりとりを行う
 - 教員に対する質問の機会を確保
- 授業は必ず録画して残しておく
 - 記録のため&欠席者・復習用に授業後公開するため

授業として成立するための条件

②オンデマンド型

- (a) 毎回の授業ごとに，設問解答，添削指導，質疑応答等による十分な指導を行う
 - ひとまとまりの授業資料が1回分と明確にわかるようにする
 - 教員または授業補助者による，対面またはオンラインでの学習支援
 - 課題のフィードバックや添削指導，質疑応答への対応など
 - 電子メール，ファックス，郵送，直接対面での指導もありうる
- (b) 学生等の意見の交換の機会を確保する
 - Moodleのフォーラム，Word共同編集の活用，Zoomで同時に実施
- 「同時」かつ「双方向」である必要はない
- 映像などの資料を見せて終わり→認められない
- 単に教科書を読ませて質疑応答→認められない

遠隔授業における試験の取り扱い

- 面接授業に代えて遠隔授業を行う場合にも，学生に対しては試験の上単位を与える
- ただしその方法は，一斉に実施する定期試験等に限らない
- レポートの活用による学習評価等，到達目標に応じた適切な成績評価手法を選択することができる
- その際シラバスを変更することは差し支えないが，学生に対する丁寧な説明に努めること

令和2年度における大学等の授業の開始等について(通知)による

【参考】授業中に課すものに相当する課題研究等とは？

- 遠隔授業＝メディア授業
 - 多様なメディアを高度に利用して，文字，音声，静止画，動画等の多様な情報を一体的に扱う授業
- 課題研究＝それ以外（多様なメディアを利用しない）
- 指示の文書と課題を配布し，成果物を回収する形式
 - 例）紙面や映像などで示された問題状況に対して，個人やグループで解決方法を企画・立案させ，レポートやプレゼンテーションを求める課題
 - moodleを使って配布と回収は可能
- 実習科目
 - 例）例示をもとに行うパフォーマンス課題
 - 例）与えられた材料での作品制作
- 教員・学生の双方向のやり取りが乏しくなる危険性

- 本文書は，下記のみなさまの作成した資料を参考にしています
- 名古屋大学大学院教育発達科学研究科 坂本将暢先生
- 東北学院大学文学部 稲垣忠先生
- 専修大学情報科学研究所
- 西南学院大学

